

# 企業見聞録 VOL.7

ブルーベリーヒルの中にある  
タラソセラピー施設、  
テルムマラン……  
横文字が並び、地元勝浦でも頭の中に「？」が  
浮かぶ方が多いのではないだろうか。  
実は、勝浦の多様な資源が凝縮されたテルムマランは  
これからの時代のニーズに呼応した、  
大きな可能性を秘めた施設なのだ!!



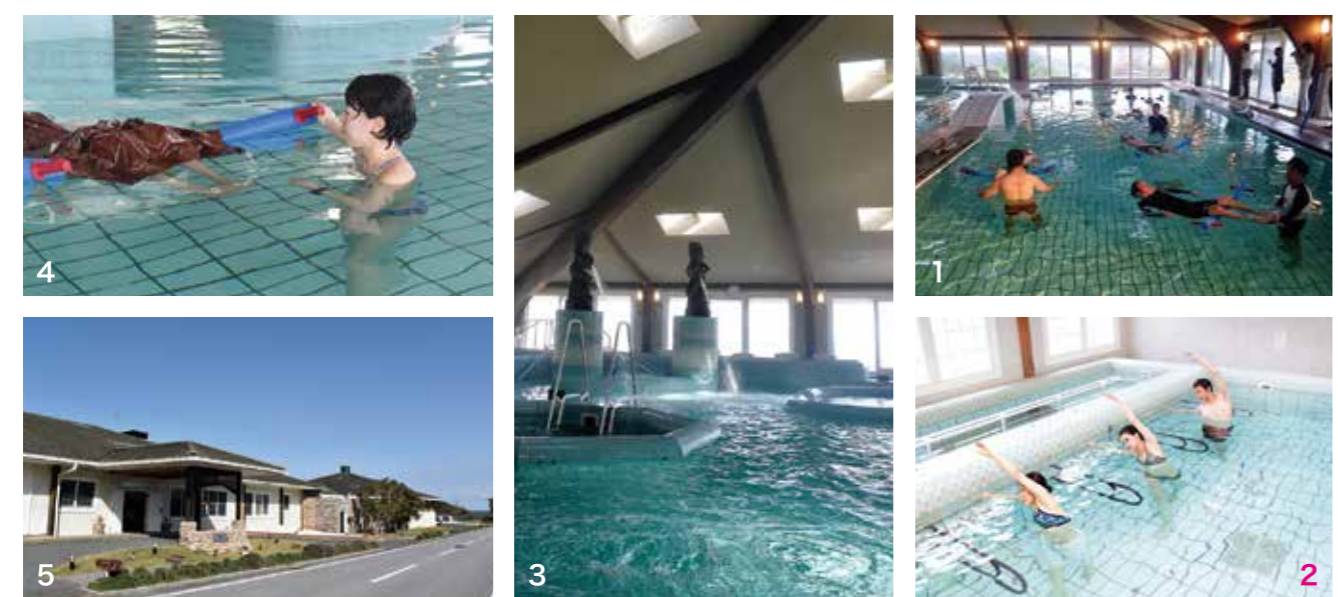
テルムマランの主要施設「アクアトニック」は温海水を使った多機能プールで、興津地区でくみ上げた海水が使われる。生の海水を使ったプールでは、日本随一の規模

そしてもう一つ、勝浦の貴重な資源がある。それは人。地元地域の雇用が多いのに加え、ライフセービング部が身体のコンディショニングにテルムマランを活用するなど、市内にある国際武道大学との関わりも深い。おとしからは武大卒の但野安菜さんが従業員として加わった。エクササイズやトリートメントなど15種ものメニューをこなすが「大学で学んだ知識が生きている」と、仕事の飲み込みが早かった。「毎日楽しくてしょうがないですね。毎日いらっしやる会員の方とお話したり」と但野さんが話すと、「会員さんのアイドルですから」と佐藤さんは笑った。

### タラソセラピーが身近になる時代

現在、テルムマランでは旧来持たれていたリゾートエステという印象を脱し、時代のニーズを踏まえながら恵まれた資源を活かすという、勝浦だからこそそのタラソセラピーを追求する原点回帰に挑んでいる。例えば今、トップアスリートによるコンディショニングの場としての利用が定着しつつある。

今後は、宿泊施設のあるブルーベリーヒルとの共同による企業向けのストレスマネジメントのできる研修先としての誘致や、隣の鴨川市にある亀田病院リハビリ科との連携を計画。人間ドッグと組み合わせた「タラソドッグ」も構想する。一方で「地元の方にも気軽に利用してほしい」と佐藤さんは強調する。地域貢献として地元向けの送迎バスも走らせている。「日本の温泉文化のように、タラソセラピーをもっと身近にしたい」。素晴らしい資源に恵まれているからこそ、佐藤さんのその思いは強まるばかりだ。



1) フェンシング日本代表や西武ライオンズなど、トップアスリートがコンディショニングや試合後のアクティブレスト（急に体を休めるのではなく、運動量を緩やかに低下させていくことで身体への負担を軽減する）に訪れる 2) エクササイズやトリートメントなど様々なメニューが揃う 3) プールの海水も勝浦の資源 4) 但野さんはビーチフラッグス競技において2016年世界選手権4位、日本選手権優勝の実績を持つ 5) ブルーベリーヒル内にあるテルムマラン。風景の向こうに太平洋を望む。地元の食材を用いた料理を楽しめるカフェ・レストランも併設。17:30以降はアクアトニックが半額で利用できるサービスも  
※1・2写真はテルムマランより提供



## 【テルムマラン パシフィック(株式会社タラソランド)】

所在地 ■ 勝浦市興津 1920 ブルーベリーヒル内  
創業 ■ 1997年。創業時からフランスにある名門タラソセンター「テルムマランド サンマロ」と業務提携。その技術とサービスを継承し、今日まで日本における本格的なタラソセラピー施設として知られている  
主な事業内容 ■ ハイドロセラピー（水治療法）、アルゴセラピー（海藻療法）、キネジセラピー（運動療法）、クリマセラピー（気候療法）をベースに様々なプログラムでタラソセラピーを展開 従業員 ■ 31人  
☎ 0120-655-779 <http://thalasso.jp/tmp/>

### タラソセラピーって何？

タラソセラピーとは「海洋性気候のもと、海水、海藻など、海の資源を用いて身体を内側から活性化させ機能を高めていく、医学的理論に裏付けられた自然療法で、古くからヨーロッパで行われている」と……と解説を受けても、なおイメージが湧きにくい。そこでテルムマランオーナーの佐藤剛さんが「海水の温泉です」とひとこと。「プールには温泉成分は入ってませんから温泉表記はできませんが、日本人なじみある温泉文化、湯治みたいなものと思っただけかといいかと。体温に近い温度で、身体に負担をかけずに入れますので」。なるほど、山あいの自然に抱かれつつ温泉に浸かり、ゆっくりと心身を健やかにしていく湯治に置き換えてみるとわかりやすい。湯治場にも適地がある。ここ勝浦はタラソセラピーの環境として大変恵まれた場所なのだ。

### 勝浦の多彩な資源を活かす

清らかな空気に心地よい潮風、雄大な海の風景。リラクゼーション効果のある海辺の環境、身体に負荷のかからない温暖な気候はタラソセラピーの必要条件だが、それらは勝浦にすべて揃っている。さらにプールの水は、タンクローリーでほぼ毎日運んでくる、興津でくみ上げられた新鮮な海水だ。「海水は体内成分と似ていると言われていますが、特に勝浦の海水はミネラルのバランスがいい」と、佐藤さんはその水質に太鼓判を押す。